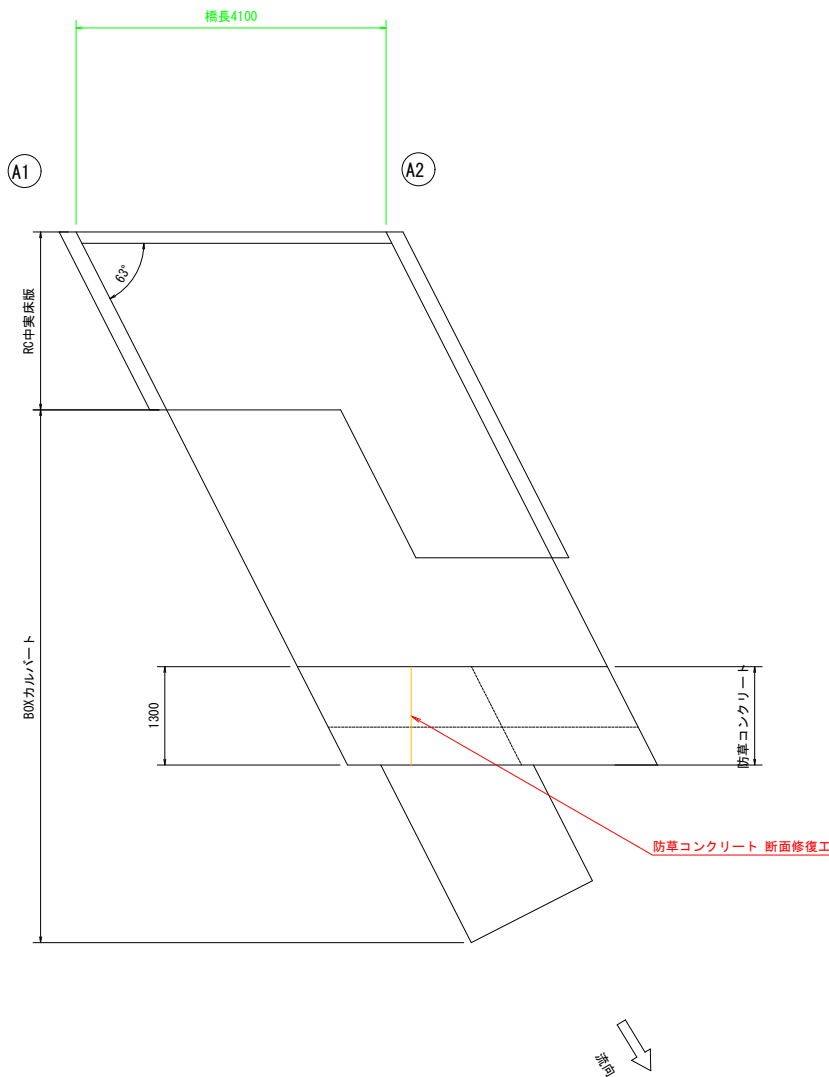


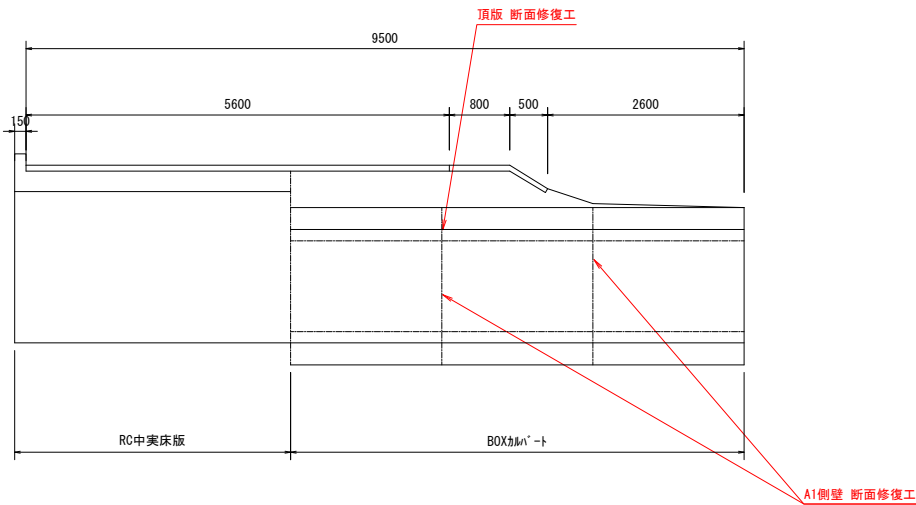
池田橋 橋梁一般図(1) (補修工)

A1 (S=1:50)
A3 (S=1:100)

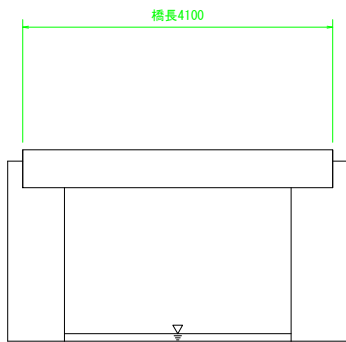
平面図



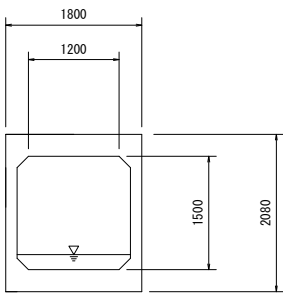
断面図



側面図(上流側)



側面図(下流側)



補修工一覧

補修箇所	補修工	詳細事項	施工数量
<div></div>	頂版・側壁断面修復工	BOXカルバート部目地周辺の頂版及び側壁の欠損箇所に適用 左官工法（断面修復材：ポリマーセメントモルタル）	V= 0.012m ³
<div></div>	防草コンクリート断面修復工	防草コンクリートのひびわれに対して適用 ひび割れ箇所の段差はすり付けにより解消する 左官工法（断面修復材：ポリマーセメントモルタル）	V= 0.0176m ³

※各補修工の詳細は補修計画図を参照

設計条件

路線名	市ノ坂5号線
橋長	4.10m
有効幅員	5.60m
設計荷重	
橋梁形式	R C床版橋+R C溝橋
添架物	なし
竣工年月	1980年

令和 8 年度	
工 事 名	令和6年災 第12102号外 市道市ノ坂線外 道路災害復旧工事(橋梁)
路 線 名	市ノ坂5号線
箇 所	輪島市三井町市ノ坂外 地内
図 面	池田橋 一般図(1)
縮 尺	図示
図面番号	1 / 7 枚の内
輪 島 市	

池田橋 断面修復工計画図

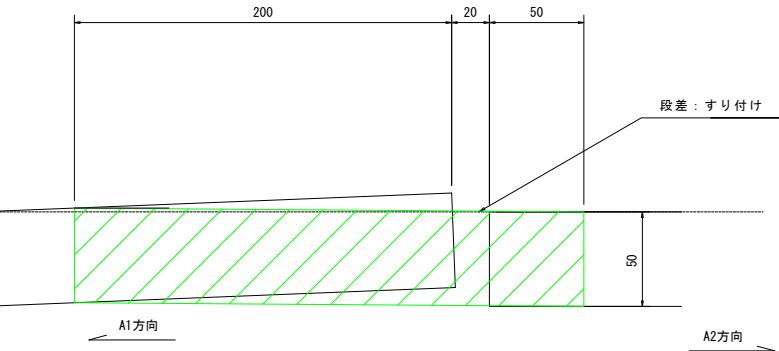
A1 (S=1:50)
A3 (S=1:100)

下面図

平面図

⑥断面図(橋軸方向)

A1 (S=1:2)
A3 (S=1:4)



断面修復工(鉄筋防錆処理有) 集計表

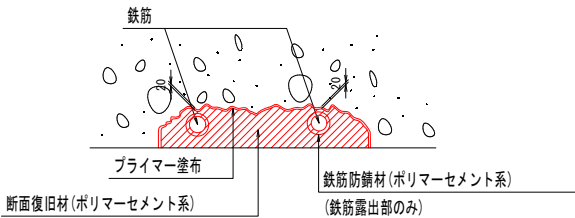
番号	損傷種類	部材名	W(m)	L(m)	D(m)	V(m3)
1	欠損	頂版	0.100	0.650	0.050	0.0033
2	欠損	A1側壁	0.100	0.350	0.050	0.0018
3	欠損	A1側壁	0.100	1.300	0.050	0.0065
4	欠損	A1側壁	0.050	0.100	0.050	0.0003
5	欠損	A1側壁	0.050	0.100	0.050	0.0003
合 計						0.0122

断面修復工(鉄筋防錆処理無) 集計表

番号	損傷種類	部材名	W(m)	L(m)	D(m)	V(m3)
6	ひびわれ	防草コンクリート	0.270	1.300	0.050	0.0176
合 計						0.0176

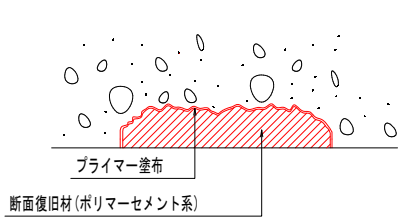
断面修復詳細図

(鉄筋防錆処理有)



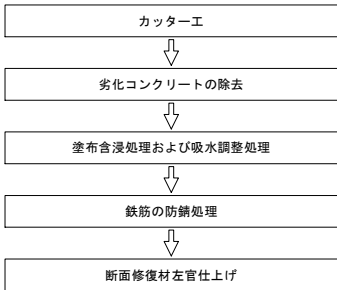
断面修復詳細図

(鉄筋防錆処理無)



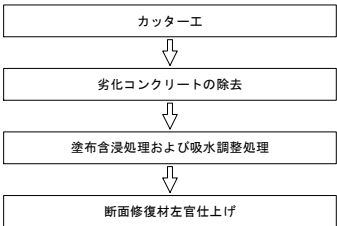
断面修復工フロー

(鉄筋防錆処理有)



断面修復工フロー

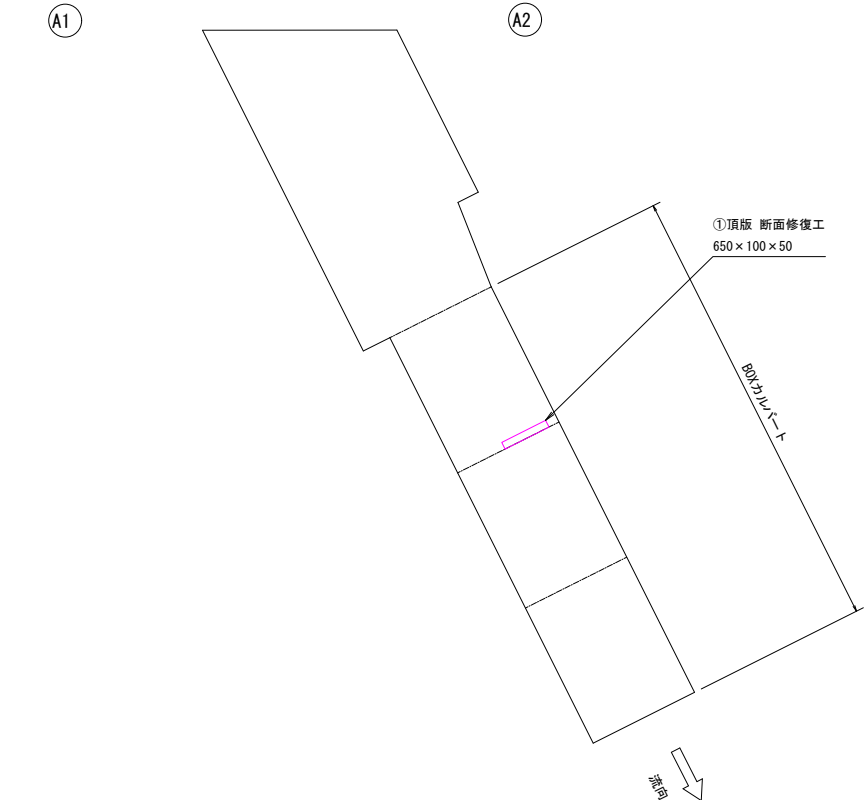
(鉄筋防錆処理無)



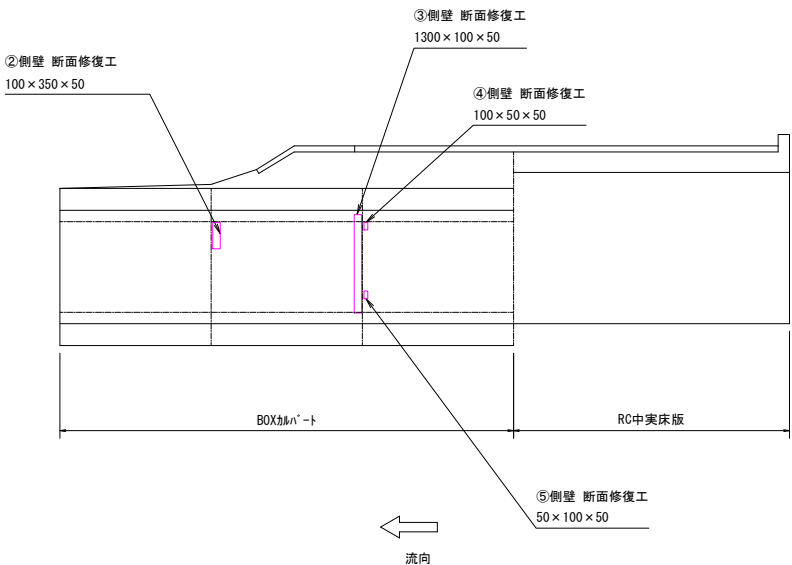
- ・劣化コンクリートをはつりとり、鉄筋露出部は鉄筋背面まで20mm程度まで露出させて防錆処理を施し断面修復を行う。
- ・修復材料は「断面修復材性能表」に示す性能を満足すること。
- ・補修材の圧縮強度は母部材24.0N/mm 以上、付着強度1.5N/mm 以上を確保すること。
- ・はつる範囲には、カッター目地を10mm程度入れて、フェザーエッジにならないように注意すること。
- ・施工時に、補修箇所(寸法等)を再度確認すること。
- ・鉄筋防錆材を塗布する前に鉄筋表面の錆を除去すること。
- ・鉄筋防錆材を塗布する際は、塗り残しのないように入念に塗布すること。
- ・修復材は十分硬化したうえで次層を塗り重ねること。
- ・露出させた鉄筋の背面まで入念に埋め戻すこと。

要求性能	設計及び施工条件
圧縮強度	躯体コンクリートと同様な強度特性を有すること (24.0N/mm ² 以上)
付着強度	躯体コンクリートと一体となること (1.5N/mm ² 以上)

令和 8 年度	
工 事 名	令和6年災 第12102号外 市道市ノ坂線外 道路災害復旧工事(橋梁)
路 線 名	市ノ坂5号線
箇 所	輪島市三井町市ノ坂外 地内
図 面	池田橋 計画図
縮 尺	図示
図面番号	2 / 7 枚の内
輪 島 市	



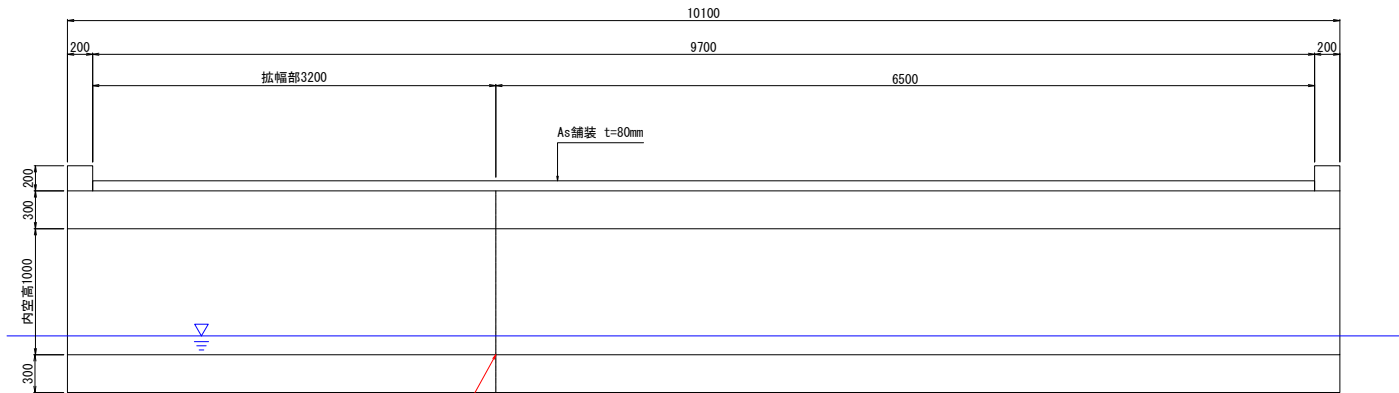
A1側 断面図



市ノ坂1号橋 橋梁一般図（補修工）

側面図

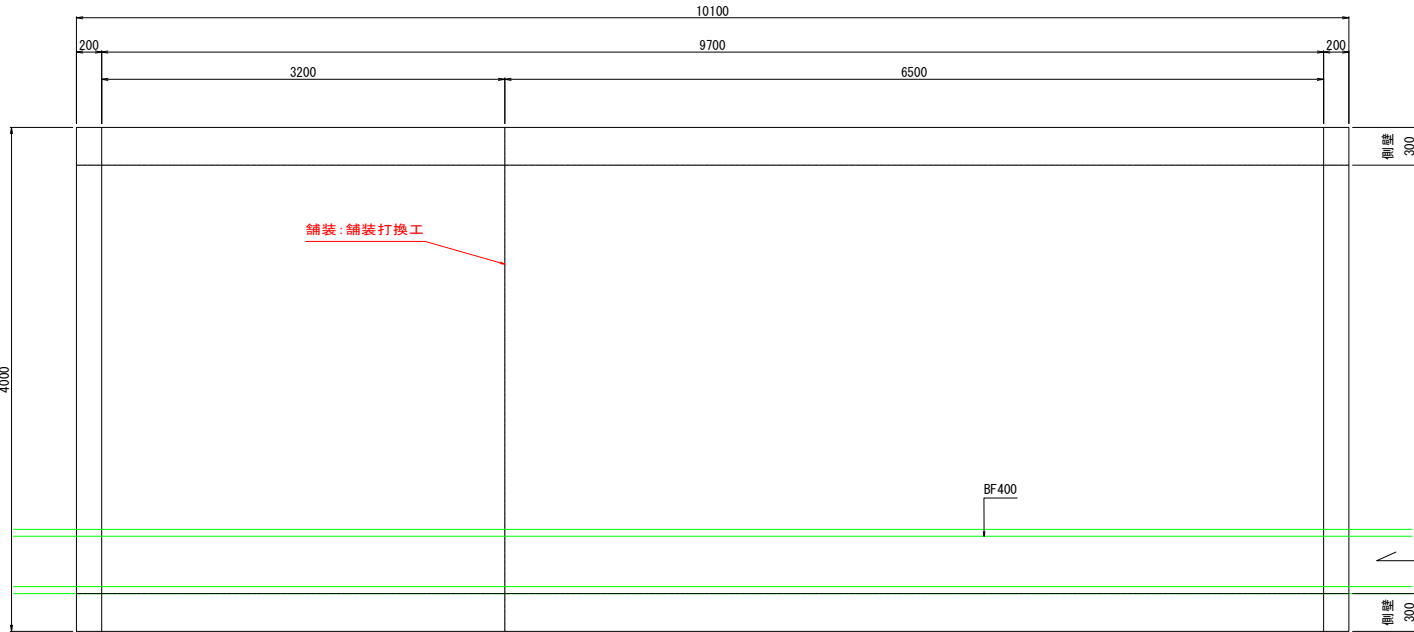
A1 (S=1:30)
A3 (S=1:60)



ボックス継目：目地補修工

平面図

A1 (S=1:30)
A3 (S=1:60)



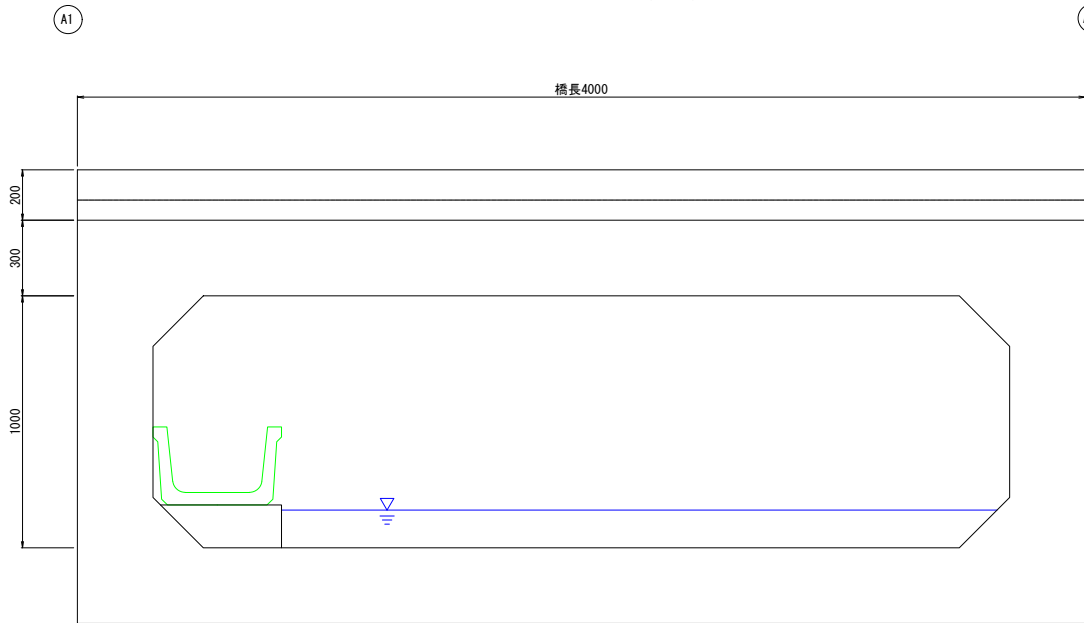
舗装：舗装打換工

BF400

水路

断面図

A1 (S=1:15)
A3 (S=1:30)



補修工一覧

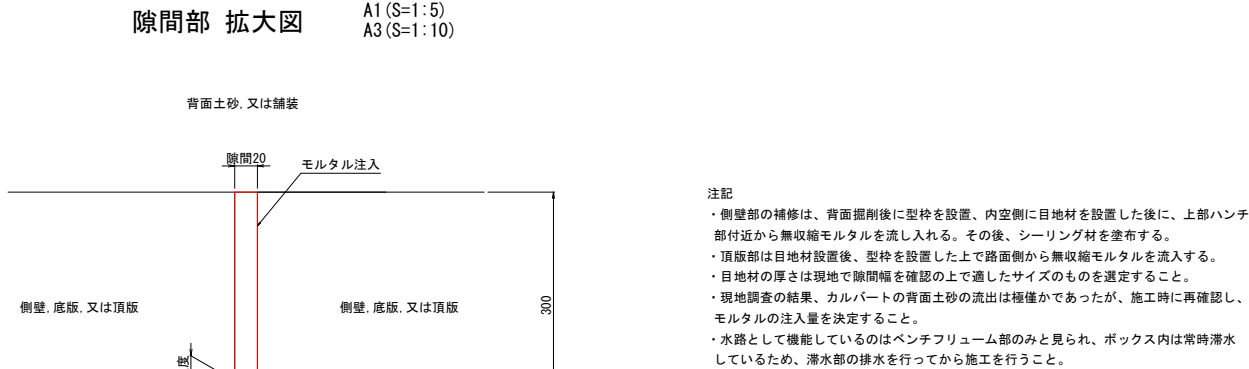
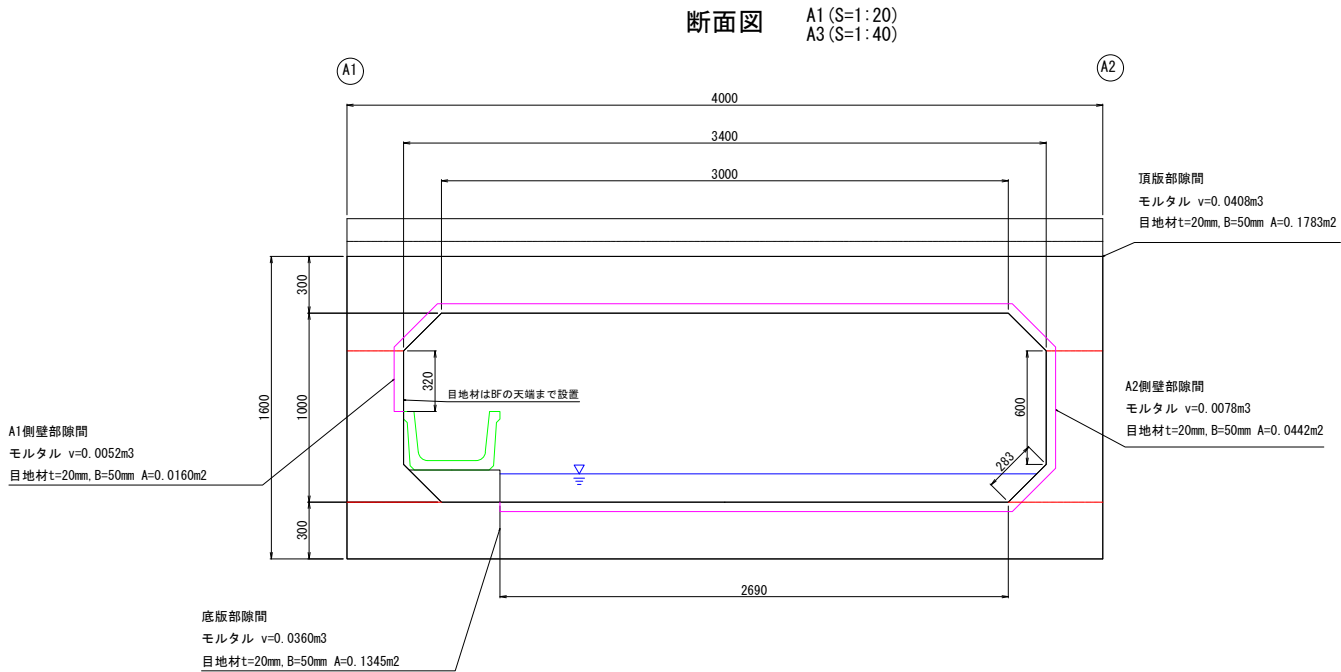
補修箇所	補修工	詳細事項	施工数量
<div></div>	目地補修工	躯体継目の隙間に適用 モルタル材を注入し、側壁表面側に目地材とシーリング材を設置する。	V= 0.089m3
<div></div>	舗装打換工	躯体の継目に沿った舗装ひび割れ部に適用	A=2.0m2

市ノ坂1号橋 橋梁諸元

上部工構造形式	RCボックスカルバート
下部工構造形式	-
基礎工構造形式	-
橋長	L=4.00m
幅員構成	B=全幅員10.10m(地覆0.2m+有効幅員9.70m+地覆0.2m)
斜角	90°
設計活荷重	T-20
架橋年月	1970年
示方書・要領等	不明
添架物	無し
附属物	無し

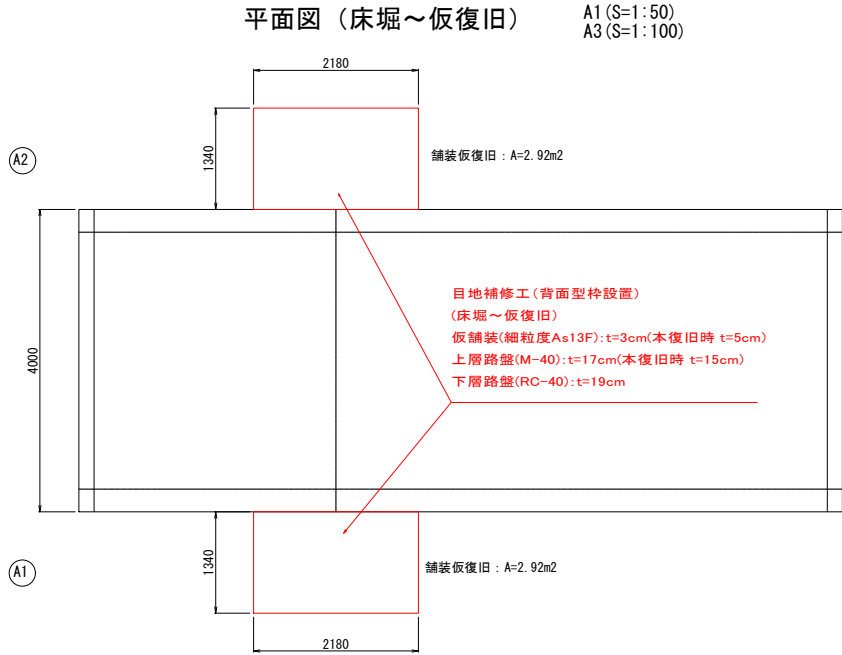
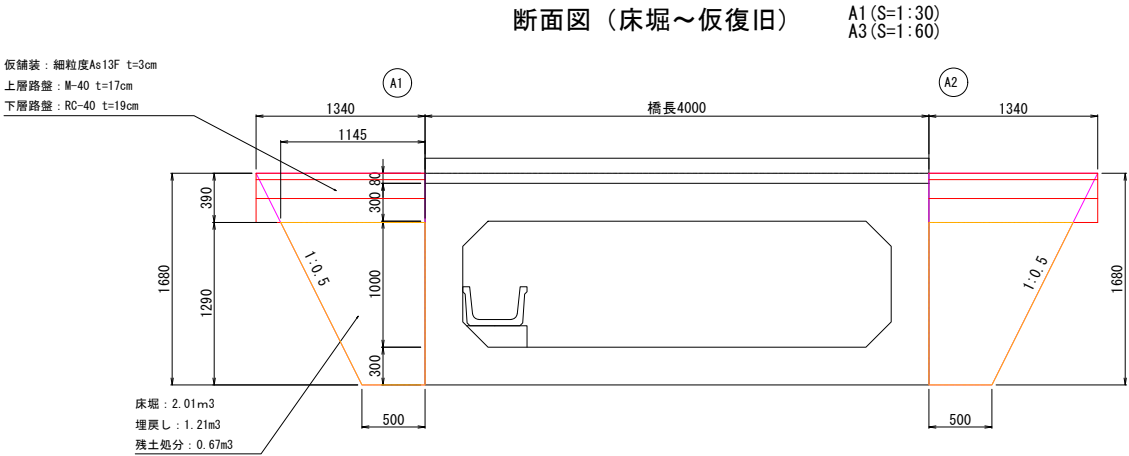
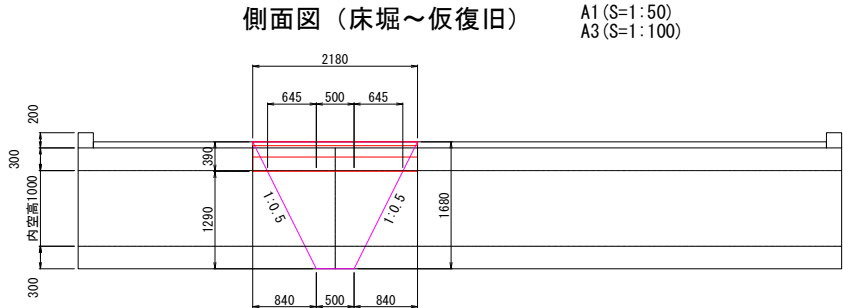
令和 8 年度	
工 事 名	令和6年災 第12102号外 市道市ノ坂線外 道路災害復旧工事(橋梁)
路 線 名	市ノ坂11号線
箇 所	輪島市三井町市ノ坂外 地内
図 名	市ノ坂1号橋 橋梁一般図(補修工)
縮 尺	図 示
図 面 番 号	3 / 7 枚 の 内
輪 島 市	

市ノ坂1号橋 目地補修工計画図



数量表

名 称	規格	計算式	単位	数量	備考
モルタル		$0.0408+0.0052+0.0078+0.0360$	m^3	0.09	無収縮モルタル
目地材		$(0.1783+0.0442+0.1345) \times 1.22+0.0160 \times 1.22$	m^2	0.5	$t=20\text{mm}$ 、ロス率22%
シーリング材	$W=50\text{mm}$ 、 $t=3\text{mm}$	$(0.60+0.283 \times 3+3.00+2.69+0.32) \times 0.05+0.003 \times 1750\text{kg}/\text{m}^3 \times 1.26$	kg	2.5	ロス率26%
型枠	$W=300$	$(1.60+0.30) \times 2\text{箇所}$	m^2	0.96	側壁部
		$(3.00+0.283 \times 2) \times 0.30$	m^2	1.07	頂版部



数量表（1箇所当り）

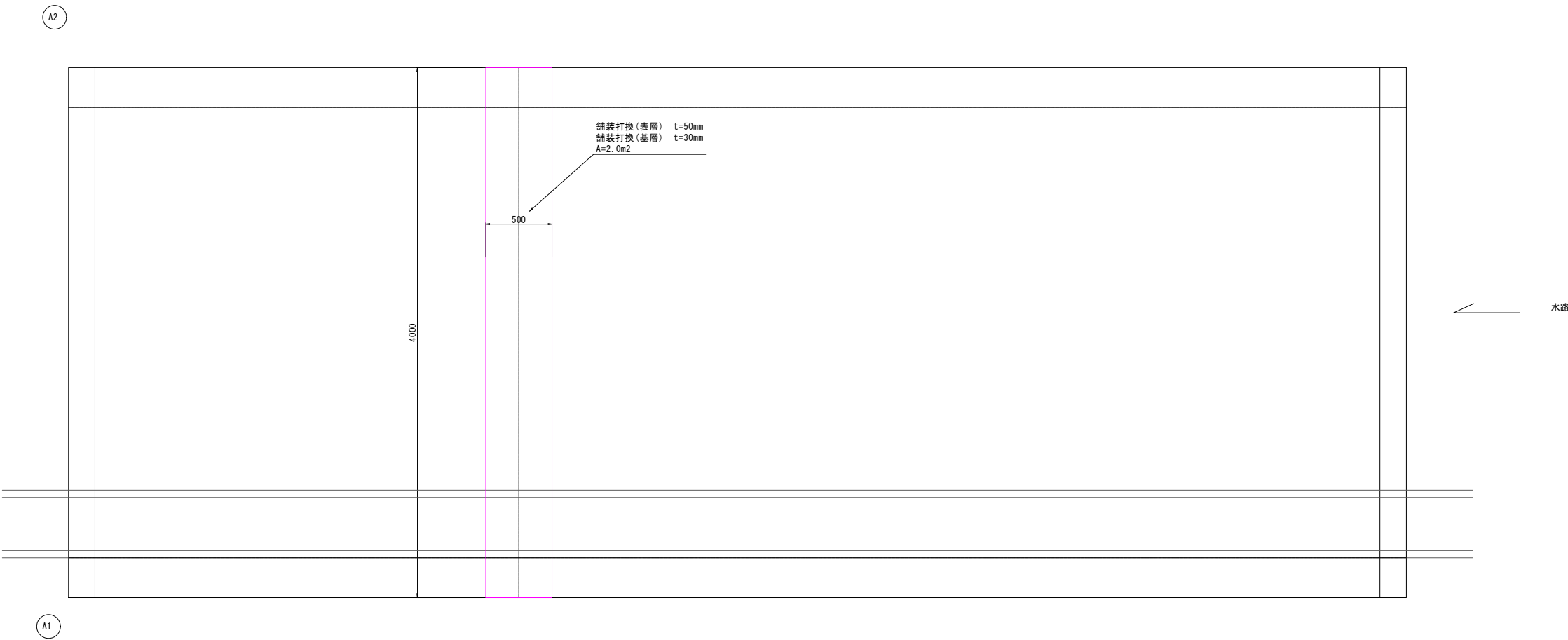
名 称	規格	計算式	単位	数量	備考
床堀		$((1.34+0.50)/2 \times 1.63+0.84/2) \times 2 + ((1.34+0.50)/2 \times 1.63+0.50)$	m^3	2.01	
埋戻し		$((1.145+0.50)/2 \times 1.29+0.645/2) \times 2 + ((1.145+0.50)/2 \times 1.29+0.50)$	m^3	1.21	
残土搬出	場外搬出	$2.01-(1.21/0.9)$	m^3	0.67	場外搬出
舗装仮復旧	下層路盤（RC-40） $t=19\text{cm}$	2.18×1.34	m^2	2.92	
	上層路盤（M-40） $t=17\text{cm}$	2.18×1.34	m^2	2.92	本復旧 $t=15\text{cm}$
	As舗装（細粒度As13F） $t=3\text{cm}$	2.18×1.34	m^2	2.92	本復旧 $t=5\text{cm}$

令和 8 年度	
工 事 名	令和6年災 第12102号外 市道市ノ坂線外 道路災害復旧工事(橋梁)
路 線 名	市ノ坂11号線
箇 所	輪島市三井町市ノ坂外 地内
図 名	市ノ坂1号橋 目地補修工計画図
縮 尺	図 示
図面番号	4 / 7 枚 の 内
輪 島 市	

市ノ坂1号橋 舗装打換工計画図

A1 (S=1:20)
A3 (S=1:40)

平面図



数量表

名 称	規格	単位	数量	備考
舗装打換(表層)		m2	2.0	t=50mm 密粒度As(20F) タックコート(pk-4)
舗装打換(基層)		m2	2.0	t=30mm 密粒度As(13F) タックコート(pk-4)

注記
・ 舗装ひび割れが生じている範囲を幅50cm程度で撤去し、躯体継目の隙間を充填する。

令和 8 年度	
工 事 名	令和6年災 第12102号外 市道市ノ坂線外 道路災害復旧工事(橋梁)
路 線 名	市ノ坂11号線
箇 所	輪島市三井町市ノ坂外 地内
図 名	市ノ坂1号橋 舗装打換工計画図
縮 尺	図 示
図 面 番 号	5 / 7 枚 の 内
輪 島 市	



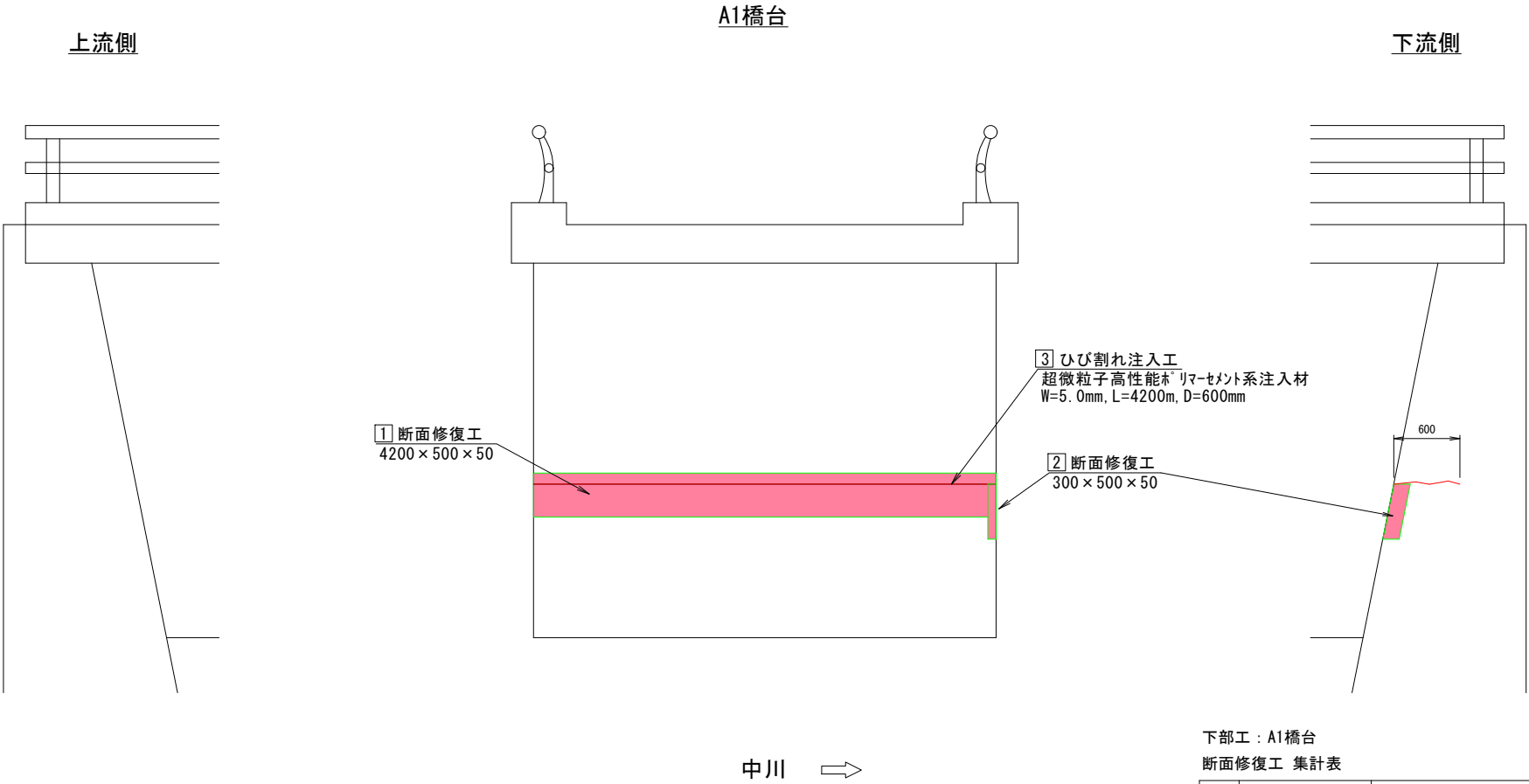
名 称	規格	単位	数量	備考
土のう積工		m2	3.0	土のう (62×48cm)、小口並べ

- ・本図面にに基づき施工すること。
- ・図面に疑義が生じた場合は、速やかに監督職員と協議すること。
- ・関連法令（河川法等）及び関係機関からの指示を遵守すること。
- ・水路として機能しているのはベンチフリーム部のみと見られ、ボックス内は常時滞水しているため、滞水部の排水を行ってから施工を行うこと。
- ・河川増水が予想される場合（大雨等）は、速やかに土嚢を撤去し流路を確保すること。気象情報を常に確認すること。

令和 8 年度		
工 事 名	令和6年度 第12102号外 市道市ノ坂線外 道路災害復旧工事（橋梁）	
路 線 名	市ノ坂11号線	
箇 所	輪島市三井町市ノ坂外 地内	
図 名	市ノ坂1号橋 水換え工計画図	
縮 尺	図 示	
図面番号	6 / 7 枚 の 内	
輪 島 市		

直郷橋 補修図

A1 (S=1:30)
A3 (S=1:60)



下部工：A1橋台

断面修復工 集計表

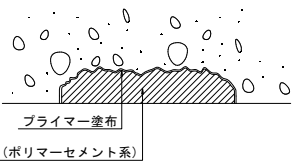
番号	損傷種類	部材名	W(m)	L(m)	D(m)	V(m3)
1	欠損	壁壁	4.200	0.500	0.050	0.10500
2	欠損	壁壁	0.300	0.500	0.050	0.00750
合 計						0.11250

下部工：A1橋台

ひびわれ注入工 集計表（超微粒子高性能リマーセメント系注入材）

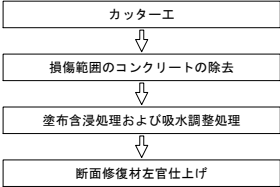
番号	損傷種類	部材名	箇所数	W(m)	L(m)	D(m)	V(m3)
3	ひびわれ	壁壁	1	0.005	4.20	0.50	0.0105
合 計							0.0105

断面修復詳細図



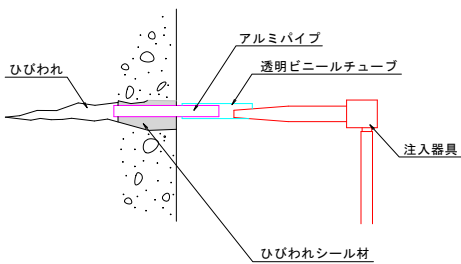
- 注記
- 修復材料は「断面修復材性能表」に示す性能を満足すること。
 - 補修材の圧縮強度は母部材16.0N/mm²以上、付着強度1.5N/mm²以上を確保すること。
 - はつる範囲には、カッター目地を10mm程度入れて、フェザーエッジにならないように注意すること。
 - 施工時に、補修箇所(寸法等)を再度確認すること。
 - 修復材は十分硬化したうえで次層を塗り重ねること。

断面修復工フロー



要求性能	設計及び施工条件
圧縮強度	躯体コンクリートと同様な強度特性を有すること (16.0N/mm ² 以上)
付着強度	躯体コンクリートと一体となること (1.5N/mm ² 以上)

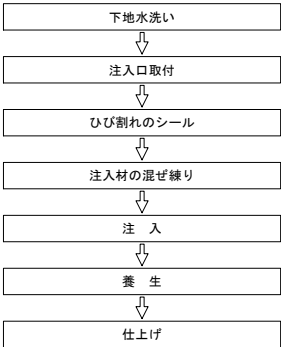
ひび割れ注入工詳細図



- 注記
- 5.0mm程度のひび割れを補修対象とする。
 - 補修材の圧縮強度は母部材16.0N/mm²以上、接着強度1.46N/mm²以上を確保すること。
 - 施工は自動低圧注入工法もしくは手動式ポンプ注入工法とする。
 - 施工時にひび割れ注入箇所を再度確認すること。
 - 本橋梁においては、断面修復範囲のコンクリート除去後に注入作業を実施する。

要求性能	設計及び施工条件
圧縮強度	躯体コンクリートと同様な強度特性を有すること (16.0N/mm ² 以上)
接着強度 (引張強度)	躯体コンクリートと同様な強度特性を有すること (1.46N/mm ² 以上)

ひび割れ注入工フロー



令和 8 年度	
工 事 名	令和6年災 第12102号外 市道市ノ坂線外 道路災害復旧工事(橋梁)
路 線 名	中1号線
箇 所	輪島市三井町市ノ坂外 地内
図 名	直郷橋 補修図
縮 尺	S=1:30
図面番号	7 / 7 枚の内
輪 島 市	